

■会長/山田 文雄 ■幹事/小平 直史

◆司会=北川 和彦SAA、合田 敦子副SAA

◆ゲストビジター=NPO法人 子どもサポートチームすわ
理事長・小池みはる様、米山奨学生・張旭光様

◆出席報告

本日	63.27%	18名欠席
前回訂正	71.43%	15名欠席

◆ラッキーナンバー=No. 4 玉本広人君

◆ニコニコボックス=●山田文雄君・小平直史君=小池みはる様、張旭光さん、ようこそ諏訪ロータリークラブへ。●古屋了君=本日、例会担当させていただきます。子どもサポートチームすわ小池理事長にお話し頂きます。どうぞよろしくお願ひします。●北川和彦君・平林明君・川村総一郎君・合田敦子君=小池みはる様、ようこそ諏訪ロータリークラブへ!!●三井章義君=米山奨学生の張旭光さんをお迎えして。●玉本広人君=ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・山田文雄君=今日は、やわらぎ像清掃奉仕の事と題してお話をします。本日の例会は、第3157回となります。やわらぎ像はクラブ例会第100回(今から3057回前)を記念して、湖畔公園の一角に建てられたブロンズ像です。現在のやわらぎ像は布半の前に移設されていますが、設立当時はD51のあたりに設置されていたという事を聞いております。寺島清七先生の残した文章によると、会員からは期せずして「質素なうちにも香り高い記念事業」をとの声が上がり、一決し、原村出身の彫刻家、清水多嘉示氏(昭和39年芸術院会員となる)に強引にお願いして、先生会心の作品「裸婦」(文展特選)の立像を、桜御影の台石の上に据え付ける事が出来た。このブロンズの建設地約100坪は、諏訪市当局のご好意により円形のロータリーとし、正面台石の根元に「四つのテスト」を銅板に刻んで斜めに埋めた。ひそかなる我等の願いを込めたつもりである。出来上がったのは、昭和34年6月10日である。予定した式典は6月12日。低くたれこめた雲が、今にも雨を呼びそうであった。風も強いが、日章旗とロータリーマークの大旗が、像の後方にはためていた。湖畔の柳の大木はすっかり枝を落としたので、湖面を越えて雲の流れる合間に、北アルプスがくっきり浮かんでいた。(後日市役所公園係の方に、柳の枝を切ったことで叱られ、丁重に謝った)。白布に覆われたブロンズは、次期会長佐藤君のお嬢さんの手で除幕され、会するもの全員の万雷のごとき拍手のうちに、力強い端麗な姿を現わした。この記念すべき例会100回記念式典を、ともに祝って頂くために、スポンサークラブである松本クラブと、先輩飯田クラブの方々に、ご家族ご同伴で参加して頂き、合同家族会として、盛大なうちにも厳肅な雰囲気の中で、一日を過ごしたことを、松本、飯田両クラブに感謝したい。最後に、清水先生が全くの犠牲で、郷土の為に協力をお願いし、ご夫妻で式典に参列された上に、先生直筆の色紙を参会者一同に分け与えられたご懇情に、深甚の謝意を表します。・・・とあります。諏訪ロータリークラブ10年の歩みから、「やわらぎ像清掃奉仕」と題した、もう一方の寄稿を紹介させていただきます。以下岩波会員の父君の

岩波寿さんの残した文書です。2,3年前の晩秋だったか、私ははじめて「やわらぎ像」の清掃に参加した。それまで幾度となくこの像の前を散策したのであるが、環境的良さより来る調和のよさというような漠とした感懐しかなかったのである。その日、会員の諸先輩方が手に手に箒、熊手、鎌などを持って落葉を集め、草むしりなど楽しげに奉仕される情景を見せて頂いたのである。その日まで「やわらぎ」なる言葉も、さして関心を持っていなかった私であったが、その時何とは無く考えさせられるものがあったのである。「やわらぎ」すなわち{和らぎ}であろう。「和」についてその深い意味はとにかくとして、社会生活を営む最も大切な基盤の一つであること位の事は知っていた私も「ロータリーとは」などの難しい事は良く分からなかったのであるが、今ここに和気藹藹として清掃奉仕に汗している姿を見て、これこそほんとうのやわらぎの姿であり、この姿がロータリーの心であろうと感慨深いものを持ったのである。「やわらぎ像」建立の精神を私なりに考え、ロータリーなるものも考え直してみたのである。(岩波寿) 今日のお話告知は以上とします。

◆幹事報告・小平直史君=①本日の例会は、社会奉仕委員会担当例会となります。NPO法人子どもサポートチームすわ理事長 小池みはる様による卓話となります。②ご案内の通り、新旧役員・委員長の引継ぎ会を5/21(火)18:30~布半にて開催予定です。新旧役員・委員長の皆さんは、ご出席をお願いいたします。③5月のロータリーレートは、1ドル=157.00円となります。④本日例会終了後、定例の理事会を開催いたしますので、理事会メンバーの皆さんはお集まりください。

◆米山奨学生へ奨学金授与=米山奨学生の張旭光様より大学での研究成果等の近況報告がありました。その後、山田会長より奨学金の授与をしました。



◆クラブフォーラム・卓話●社会奉仕委員長・古屋了君=本日は、不登校・ひきこもりの現状とフリースクールの課題という事で、社会奉仕の一端として子どもサポートチームすわの小池理事長にお話しをして頂きます。それに先駆けて、やわらぎ像の清掃日になっております。理事会のため例会前に私が一人で清掃をやってきました。小池様とのお付き合いは10年になります。小池様の活動の成果で、行政もかなり現実に目を向けて支援してくれる等、変わってきました。



●NPO法人 子どもサポートチームすわ理事長・小池みはる様=今回、貴重なお時間を頂き、心より感謝いたしております。また年末にもご支援を頂き、私たち現場は大喜びで、みんなさらに頑張っているところです。今年、諏訪市も三輪教育長になり、教育行政が変わりました。その状況等も踏まえて不登校というものが、不登校という名前すらなくなっていくという現実があります。その辺をお話して、子供サポートチームすわの実践から、ご理解を頂けたらと思います。不登校は、30日以上欠席した場合と国が決めております。フリースクールというのは、一般的に不登校子供に対して、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施

設を言います。最近すごく変わりましたのは、「学校に戻す」ことをゴールとせず、「個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援」が行われるように勧告されるようになったことです。長野県も不登校の数は多く、全国3位に位置しており、不登校はコロナの時以上にどんどん増えているという現状です。平成5年3月31日に、文部科学省が「誰1人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」という「COCOLOプラン」というのを取りまとめました。「こども家庭庁」が、文部科学省とタイアップして仕組みを作りました。フリースクールもしっかりこの国の中の支援として位置付けられました。学校、行政、フリースクール、家庭が連携してこの問題を解決していこうという方向になりました。子どもサポートチームすわは今年で27年目になります。基本理念は「不登校の小中高校生と引きこもりの若者、そしてその家族を支援することを目的」としています。子どもの心に寄り添うこと、その子どもの幸せを第一に考えています。子ども達の個性を認め、本人の気持ちを大切にすることで自己肯定感を養うように支援しています。私たちの経験から、また不登校の状況から見ても、今日の子供達は多種多様な学びを必要としています。チームすわの活動としては、基本理念に沿い内発、自主性を尊重して学びや体験を通して、未来の自分に希望を持てるよう、子ども達が主導で活動スケジュールを決めています。フリースクールは県による認証制度です。学校の勉強を教えるということが認証の基準ではなく、子ども達が自分の個性を生かしながらどのように次の社会に出ていく自立支援というところを重視する方向に変わってきています。諏訪市も、認証フリースクールに対しての支援として、学校以外の学びも大事、応援しているよという方向になりました。学習支援という形で、5教科を教えらるスタッフが居て、勉強もしますし、社会見学や課外活動で体を動かしたりします。音楽プロジェクトはチームすわの売りです。音楽はすごく自立心を育てます。音楽の講師は佐久からプロの方が毎週来て頂いています。食ということもとても大事なので、フリースクールをスタートした時から、ずっと調理実習をやっております。チームすわの事業経緯です。1997年に茅野市文化センター等を利用して「フリースクール kid's」を開設しました。2011年に長野県よりNPO法人の認証を得て、2013年から諏訪市中洲上金子の借家で活動しております。教育行政機関からの主な委託事業として、長野県から2003年から2011年まで委託を受けて事業を展開してきました。文科省からも2006年度から2013年度まで委託を受けて、いろんな事業を展開してまいりました。文科省は民間にもきちっと支援をしてくれ、財政的にも大きな支えになりました。今は、文科省の方向性が変わってしまい、なかなか助成金が取れない状況です。チームすわが受け入れた児童生徒数の推移ですが、1997年から2022年までで真ん中がすごく多いのは、県の支援が年間360万円入っていた時です。



その時には学習支援や、子ども達の相談が無料で出来て、生徒数が増えました。チームすわの財務状況と課題は、保護者の負担がすごく大きいということです。月3万円を頂くのですが、親からしてみれば非常に大きな負担です。次はチームすわの現状と課題です。目指す姿は、ひとり一人を大切に、

子どもの心に寄り添い、その子が望む学び、体験を通して未来の自分に希望を持てる場を作っていきたいと思っております。課題として、①学びたいことを学びたい場所で学べること。②チームすわの理解と地域連携が取れること。③本活動の持続性です。次にロータリアンの皆様へのお願いです。諏訪地域として、子供たちが安心して学べる場をともに作っていきたいと思っています。課題の解決に向けてお願いしたいことは、①学びたいことを学びたい場所で学べること。家庭のお金の負担を減らすための資金面でのご支援です。②チームすわの理解と地域連携です。子ども達は不登校からでも地域社会に出ていきます。その土台を作る意味で、インターンという形や、地域交流の場としての職場体験などを受け入れて頂けないかということです。フリースクールから職場体験という形ではなかなか受け入れてはもらえないという現状です。③本活動の持続性ということで、運営活動の資金面でのご支援です。今まで、国からも県からも市からも、1円も支援という形では頂けなくて、申請を出してもらおうという形でした。志があって、フリースクールをやりたいという若者も雇えないような状況があります。もう1つ、ロータリアンの皆様へのお願いとして、個人、企業からご寄付を頂きたいです。年間寄付額として、1万円、5万円、10万円とあります。うちのフリースクールは月3万円を頂いているので、それを加味して寄付をして頂ければありがたいと思っています。エプソン様からは今年支援を頂くことができました。諏訪市を通して、エプソン様に最大100万円という形で申請するのですが、地域に私たちの活動を開いていきたいと思い、チームすわに通ってきている子ども、通ってきていない子ども、また不登校、登校に限らず受け入れています。学校では提供されない新しい学び、VRとかAI学習を進めています。もう1つは、諏訪市教育委員会の三輪教育長とも連携して、担当者を置いてくださいました。新しい学びが諏訪市の学校へ逆にフィードバックされ、諏訪市自体が活性化されていくと良いなという、大きな観点で今やっているところです。最後になりますが、卒業証書を渡しているところです。子供たちがチームすわで活動して、いろいろな体験をする中で、いろいろなことを学んでいきます。体験の中から学び取ったことによって、自分の自己肯定感が育っていくと思っています。写真の卒業証書ももらっている子は、小学校4年から入退院を2年間した中からフリースクールに通った子ですが、正社員として諏訪市内の企業に入社しました。今年、センター試験を受けて、4年制大学の数学科に受かった子もいました。フリースクールを27年やってきて初めてのことで、少し教育の一端を担えたかなと思います。世界はもうフリースクールというのは、不登校の居場所ではなくて、フリースクール教育ということで、1つの教育の形として存在しています。日本ではフリースクールは、不登校を受け入れる場となっています。県も認証制度という形で、やっと認めてくださったという形です。これを機会に、もう1歩も2歩も頑張りたいと思っております。

◆今後の例会日程

5/17(金)	クラブフォーラム 関係団体活動報告
5/24(金)	ゴルフ例会 諏訪湖カントリークラブ
5/31(金)	クラブフォーラム 会員卓話
6/7(金)	クラブ協議会 次年度へ向けて